

村長の日記

3月21日（月）

楠木正成考シンポジウム（明治神宮会館 産経新聞社主催）

明治神宮会館で産経新聞主催「くすのき正成考・引き継がれた忠と義～再評価したい大楠公・小楠公」が開会された。

第1部 基調講演「くすのき正成の魅力と再評価」

講師：井沢元彦氏 作家。週刊ポスト連載中の「逆説の日本史」他で有名。

第2部 特別講演「美しいメロディを歌い継ぐ」

講師：東儀秀樹氏 雅楽師。奈良時代から1300年間雅楽を世襲してきた東儀家の出身、他分野の音楽家とのコラボで有名。

第3部 パネルディスカッション「引き継がれた忠と義～再評価したい大楠公・小楠公」

パネリスト 寺井種伯(四條畷神社・大阪天満宮宮司)

垣田宗彦(湊川神社宮司)

松本昌親(大阪府千早赤阪村長)

コーディネーター 安本寿久(産経新聞特別記者・編集委員)

映像メッセージ 島田智明(大阪府河内長野市長)

15日に議会終了と共に、パネリストの準備に入った。

楠木正成、楠公さん(なんこはん)は子どもの頃からおなじみの名前。小学校時代の運動会は楠公さんと呼んでいた千早城址、教室は顕彰会(楠公顕彰会の建物)、先生は千早神社(楠公さんを祭っている)の神主さん、家のある川には楠公さんが千早城址から落とすと伝えられる大きな岩(記憶では20~30トンはあると思う)が10個はあった。楠公さんと言うよりは、隣のおっさん、おばはんの感覚だった。

また村の中では、誕生地、産湯の井戸、赤坂城跡、上赤坂城跡、猫路城址、坊領城址、水分神社、千早神社、不本見神社、金峰神社、寄せ手塚、味方塚、楠公さんに関係のある遺跡が沢山ある。パネリストの神職にある2人は楠公さんのプロであり、彼の人となりについてお話しただくとして、私はなんこはんと地域、村のかかわりについて話をしよう。

私が持って行ったメモは

* 私は楠木正成が守り通した千早城のふもとだ育った。

村長の日記

家から急な石段を 950 段上ると城址に着く。戦前から千早地区では 5 月 25 日(楠公祭の日)、運動会を行っていた。1 周 80m ほどのトラックが取れる。地区中総出、山の上で弁当を食べるのが楽しみだった。

- * 千早では楠公さんのことを楠公はん、楠公はんと呼び、同郷の同志という感覚だ。
- * 千早城のふもとの川には、かつて大きな石がごろごろあり(20~30 トンていどか?)、楠公はんが落とさした石と言い伝えが残っていた。河川改修でなくなってしまった。
- * 楠公はんは物流と情報を握っていた。高野街道、大阪から大和への物流など、拠点や経路にたくさんの味方がいた。物資の補給は戦略のメインだ。
- * 金剛山での水銀(辰砂)の採掘、昭和 30 年ころまで営業。高野山からの高野豆腐製造技術移転、昭和 40 年頃まで千早の産業だった。
- * 補給のうまく行かない幕府軍は地域の住民の後ろ盾が無く、略奪などに走り、地域住民の援助が無かった。
- * 久子夫人の支え、銃後の守り。非戦闘員を使った河内木綿作りの発展。
- * 千早城と千早神社の関係
青森県人、一戸兵衛(陸軍大将・203 高地の英雄・学習院院長・楠公顕彰会会長・明治神宮宮司) 千早神社へ参拝頂き、大楠公、小楠公の掛け軸を頂く。
- * 千早城址 二の丸は標高 634m、スカイツリーと同じ。
- * 千早城は約 100 倍と言われる北条軍に対し、100 日間頑強に抵抗し、幕府壊滅の原動力になった、ポジティブな遺跡だ。
- * 日本人は悲しいこと、切ないことの好きな民族。なんこはんの遺跡は、親子別れの桜井の駅(島本町)、終焉の地 湊川、正行終焉の地 四條畷、悲しい遺跡がある。
- * 寄せ手塚・味方塚。森屋地区墓地の 1 画にあり、寄せ手(敵方)の五輪塔の方が、味方の五輪塔より大きい。楠公さんの優しさを表している。

パネルディスカッションは、ほぼ 2000 人の聴衆を集めて行われた。

井沢元彦氏、東儀秀樹氏の講演が終われば聴衆の幾分かは帰ると思っていたが、最後まで満員の聴衆。楠公さんの人気は、まだまだある。人気の高い歴史上の人物と確信した。

村長の日記

3月23日（木）

夜

大阪府より村へ応援に来ていただいた理事 2 人、土木の技師、水道企業団より水道移管事務を管轄する担当者の 4 人のご苦労さん会を行った。4 人は 4 月 1 日から大阪府水道企業団に帰る。皆さんは 2 年間、村の為に尽くしていただいた。大阪府と村が少し近くなったと感じられる。大阪唯一の村に甘えないで、世間並みの行政から進んで、一流の村と言われる行政までスキルを高めたい。皆さんの努力で少し近くなったと思える。皆さんには感謝あるのみ。

うどん懐石を食べた。私たちは、ただうどんの認識しかないが、うどんも知恵と技術をコラボすればアルコールにマッチする旨いうどんになる。きつねうどん や しいたけうどん だけでないことが理解できるお店だ。

カレーうどん ゆずうどん 他、数十種類のうどんから、仕上げの最後の 1 つ選ぶのも難しい。メニューを見ると、すべて美味く見える。すべて味わうには数十回来ないといけない。

うどん はお酒によく合う事を確認した 1 日だった。

3月26日（日）

14:00

中学校吹奏楽部による きらめきコンサート

中学校の生徒数は、毎年徐々に減少して行く。しかし、ブラスバンド部は毎年大会で何か賞を取ってくる。これは部員諸君が努力しているからであり、ここまで部員のスキルを引き上げる努力をしてくれた、担当先生の指導が行き届いているからだ。

中学校の生徒数が少ないせいもあり、今年は富田林第 3 中学校との合同演奏会。スタート時の迫力が違う。演奏する生徒は全部で 50 人はいたと思うが、豊かな音量での演奏は素晴らしい。

前半が終わったところで、挨拶の指名を受けた。舞台上上がって観客席を見たところ、今年の観客は少なかった。例年きらめきコンサートは観客が多いのだが、せっかく富田林第 3 中学校の応援を得たのに、もっと PR すべきだ。部員の父兄には周知できているだろうが、村中にもっと周知していれば、観客も増えただろうと思う。来年のきらめきコンサートは、もっと住民に知らせるようにしたい。

音楽はカラオケだけでない。周知すれば観客も集まる。来場した皆さんは必ず喜ぶ。中学校のブラスバンドは一流だ。

村長の日記

4月31日（金）

辞令交付

大阪府に帰る理事2人、土木職1人、水道企業団へ帰る理事1人に辞令を交付した。村は9年間採用を行わなかったこともあり、人材、特に技術関係の専門職がない。皆さんの協力で、庁舎建設でも今回現場建替の決定を導くことが出来た。

水道企業団へ帰る理事は、4月1日より村の水道を移管する企業団に帰ることになるが、職場は村水道課の場所で仕事をするようになるので、ただ所属が変わるだけだ。

皆さんは府に帰っても千早赤阪村を忘れず、各方面で助けてほしい。

次に退職辞令交付。

定年退職1名、自己都合退職2名うち1名は寿退社、主人の都合で桑名市へ転職する。次に府の水道企業団へ就職する2名に辞令を渡した。村を退職する2人には、新しい世界で自分の生活を切り開いてほしい。

午後

4月の初日から、河内長野市、箕面市、りそな銀行へ派遣する皆さんへ辞令交付。

河内長野市、箕面市は派遣するとともに、派遣を受け入れる。大阪でただ1つの村、田舎の村、と胸を張っている時代は終わった。これからは田舎でも、都市と同じかそれ以上の魅力ある行政が必要な時代。住民の減少を止め、人口増に向かうには、村の総合力アップが必要。

今後2年間で北大阪の箕面、隣の河内長野で得ることを、村の発展に反映させてほしい。

4月3日から、彼らは派遣先で仕事をする。千早赤阪ここにあり！！